

(株)清健建設
代表取締役

PICK UP

THE PERSON

重松 健太

KEY WORD

意義

—igi—

仕事も遊びも徹底的にやり、楽しく生きていく——

それが30名以上の従業員を抱える重松社長の人生哲学だ。

そして充実感を持って楽しく仕事に取り組むためには、

「しなければいけないことを、したいことに変える努力が大切」と説く。

上の立場の人が決めたことに唯々諸々と従うだけでは、やり甲斐もなくなる。

大事なのは自分たちで考えて仕事をやりやすくし、楽しくするための努力。

その考えで「やり甲斐」と「楽しさ」に満ちた仕事環境を作っていく。

そして従業員たちと一緒に、日々笑いながら歩むことが、社長の目標なのだ。



「やり甲斐と意義のある仕事を行い、
皆で楽しく生きていきたい」



▲従業員の皆さんも交えて記念撮影。左より宮田匡専務取締役、重松社長、社長の奥様、ゲストの村野氏、石橋佳和工事部長

出ていく人はいないんですよ。
——求心力の高さが窺えますね。普段従業員の方々にはどういった指導をしておられるのでしょうか。
「仕事も遊びも徹底的にやれ！」と言っていますね。一生懸命に働いたら、あとはとことん遊べばいい。ただ、それで翌日寝坊して仕事を休んだら叱りますよ。そういう境界線がある上で、仕事も遊びも徹底的にやればいいと思うんです。
——なるほど、何事もそういう心構えで臨めば、たとえ苦手な仕事でも楽しめるかもしれないですね。
そうですね。人間が生きていく上で、「しなければならぬこと」はたくさんありますが、その「しなければならぬこと」を僅かでも「したいこと」に変えられたら、楽しく生きられると思うんです。嫌々やっていても仕方がないじゃないですか。今日も頑張ろうと思えるようにしたいですね。仕事もそうです。上の人が決めたことをただやっているのは面白くない。だから、なるべく自分たちで考えて、やりやすいよう、楽しくなるように努力しています。
——風通しが良くて活気がある社風ですね。そんな御社だから人もどんどん集まってくるのでしょうか。
私の夢は、周りの皆と楽しく生きていくことなんです。もちろん皆の生活がかかっている以上、お金を稼ぐというのは前提としてありますが、それだけに汲々としてしまっただけじゃなければ、人生も楽しくないですよ。時にはしんどいこともあります。笑いがいられたら最高じゃないですか。今の私は、心からそう思っています。

しなければいけないことを「したいこと」に—— 皆のやり甲斐を引き出し会社を牽引する敏腕社長



ゲスト ● 村野 武範

「重松社長が経営者となったことをご両親に報告した時、お二人は大層喜ばれたそうです。現在お母様は『清健建設』の事務の仕事がされているとか。まさに最高の親孝行ですね！」

個々の人間性を見極め、個性を許容する「リーダーの器」

▼若き日々を振り返り「無茶苦茶な青春時代を送っていた」と語る重松社長。10代から20代にかけて学校にも行かず、仕事もしない日々が続いていたが、その「やんちゃ」な経験の数々は、やがて経営者となり、人を束ねる中で大いに役立っているようだ。
▼同社に入ってくる人材にはやんちゃな人間も多いが、社長自身がその誰よりも「やんちゃ」だったため、どんな人でも許容できる。また一癖ある人間と多く付き合ってきたことから、人間性を見極める観察力も磨かれた。そしてありとあらゆる個性を持った人材を取りまとめる器量も備え、どの従業員も親身に面倒を見ることで、皆の「社長についていこう」との思いを引き出していったのだ。リーダーとしての器の大きさを感じさせる社長。そんな社長のもとに人が多く集まるのも当然と言えるだろう。



株式会社 清健建設



——まずは重松社長の歩みから伺います。どのような青春時代を送っていましたか。
私は10代から20代にかけて好き放題やって生きていました。学校にも行かず働きもせず、自由を謳歌していたのです。そんな私が心を入れ替えて真剣に働くようになったのは、子どものころから一緒に遊んでいた兄貴分となる人のお陰。兄貴はある時、「これからは真面目に働く。会社をするから、お前もスタッフとして働いてくれないか」と言ってきたんですよ。それを聞いて、「兄貴がそう言うなら、俺もやろう」と決心したんです。それで今も続く建設の仕事と出会い、真面目に働くことになりました。
——ほう。これまで自由に生きてきたのが、一転して真面目に仕事に励むのは大変ではなかったですか。
いえいえ。それまで好き放題してきたのですから、それぐらいのことはできないと。それに実際に働いてみると、仕事の我慢や社会の制約も苦ではなかったんです。それで特に支障もなく、日々努力を重ねて、仕事を覚えることができました。誰にも負けないように、誰にも何とも言わせないように、との思いもありましたね。
——それは素晴らしい。社長には努力でき

株式会社 清健建設

福岡県北九州市小倉北区霧ヶ丘1丁目

11-12-505

URL：https://www.seiken1919.co.jp



代表取締役

重松 健太

る下地があったのでしようね。今では自分の会社までお持ちになられて。
ええ。私は小さいころから野心といいますが独立心があるほうでして、人に縛られず自分で何かをやりたいと思っていたんですよ。また、兄貴のところに行った期間は1、2年でしたが、とても内容が濃く、学びの多い毎日でした。それで仕事も覚え、周りにも頼れる人がいたので、「独立しよう」ということになったんです。兄貴も分かってくれて「ほんなら、やってみろ！」と背中を押してくれましたよ。
——1、2年で独立とは早いですね！実際に独立してみてもいいかなと思いました。
受注については、業界にいた知り合いに声を掛けて仕事をいただけました。また、独立当初は2人だったのが、すぐに10代からの同級生がバツと集まってくれ、仲間たちも力を貸してくれたんです。彼らはしっかりと技術と経験を積んできた熟練者なので、即戦力として充分な人材でした。そこに若い子たちも加わり、従業員がとんとん拍子に増えていきました。現在は30数名にまで膨らんでいます。
——そんなにすぐに人が集まるなんて、社長はよほど人望があるんですね。
自分で言うのもおこがましいですが、人からは「人望がある」「面倒見が良い」とは言っていただけです。私は自分がかんりのやんちゃをしてきましたから、大抵の「やんちゃ」は許容できますし、親身に面倒を見てあげると、出会ったころは私のことを怖がりして馴染めないでいた子もついてきてくれるようになるんです。独立から間もないこともあるかもしれませんが、従業員がたくさん入ってくる一方で、